

「半月を撮る」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今夜は半月である。半月には上弦と下弦があって紛らわしい。簡単に言うと、「上弦は満月に向かって大きくなる途中の半月」「下弦は新月に向かって小さくなる途中の月」ということだ。「上弦」というのは、月が沈む時に、弦(半月の明暗境界線)が上を向いている・・・という意味だ。私はこの紛らわしい用語を変えたいと思っている。南中時には弦が左側に来るので、「左弦の月」と呼べば、混乱も誤りもなくなるのではなかろうか。

呼び名はともかく、今月の月の満ち欠けを調べると、以下のようになる。

新月:10/01 09:12	上弦:10/09 13:33
満月:10/16 13:24	下弦:10/23 04:14

実は「満月」「上弦」などの、切りの良い形状は、日付だけでなく、時刻も決まっている。10月9日は上弦(半月)であるが、厳密に半月なのは、13:33だけで、その前後は半月ではないのだ。月は天球上を移動する間にも、刻々と形を変えていることになる。

今日の北軽井沢は、風雨強く荒天だったが、夕方には快晴となり、南にすばらしい半月が見えた。私はカメラを持って月の撮影に出かけた。



時刻は午後8時。10月とはいえ、高原は冷え込み、気温は7°C。かなり寒い。ジャケットが必要だ。

ちょうど浅間山の真上に半月が見えた。肉眼では浅間山のシルエットも月の形もよく見える。しかし写真

に撮ると、「見た目」と同じように撮るのは、非常に難しい・・・というより不可能に近い。



山稜のシルエットが写るようにするには、シャッタースピードを下げる(ゆっくりにする)必要がある。すると上の写真のように、肝心の月が露出オーバーになってしまい、満月のように写ってしまう。逆に月に露出を合わせると、背景は真っ暗で山は写らない。



「風景と半月」の写真はあきらめて、月だけを撮ることにした。半月ぐらいの明るさでは、三脚はなくても望遠レンズで撮影可能だ。シャッタースピードを1/2500まで上げられるので、手持ちでも写せるのだ。しかしピントが甘かった。まあ一応半月の写真である。